

■松田伝十郎 探検家。間宮林蔵に先立ち樺太が島であることを発見、アイヌ交易の官営化企図し、その保護に努めた。

まつだでんじゅうろう

・ ・ ・ ・ ・ 1769= 佐渡金山を結び関所のある宿場町越後国頸城郡鉢崎村で、農業と漁業を兼営する〔橋屋〕浅見源右衛門の長男に生まれる。

田沼意次老中1772= 3歳：父が死去し、姉とともに、母に育てられ、

母を助けて働くうち、

シラ船蝦夷来 1778= 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1781=12歳：_長雨が續いて崖崩れが起き、街道通行ができなくなると、幕府自ら復旧工事に乗り出し、鉢崎の本陣で指揮をとる普請奉行大西栄八郎を手伝ううち、才能を認められ、工事終了とともに、連れられて江戸へ出、
天明大飢饉始1782=13歳：_大西家で武士としての修業後、御小人目付松田伝十郎の養子とされ、仁三郎元敬と名乗る。

田沼意次失脚1786=17歳：

寛政改革始・1787=18歳：

松平定信引退1793=24歳：

ワシタ^ナ正月・1794=25歳：御小人になり、

ブ^ラト^ン来航・1796=27歳：

蝦夷地直轄始1799=30歳：*蝦夷地が幕府直轄となって政徳丸を派遣した際、応募する者が無かったその指揮者となり、蝦夷地御用係として厚岸・虻田・絵鞆に勤めて、警固に当り、

伊能測量始・1800=31歳：_江戸に帰る。

御小人目付箱館奉行手附出役を経て、

ア^リカ船来航始1803=34歳：*箱館奉行支配調役下役に進み、択捉詰を命ぜられ、再び蝦夷地に渡る。

レ^ダノ来航・1804=35歳：_江戸に帰り、江戸その他で蝦夷産物の売捌等に当たっていたが、

青洲麻酔手術1805=36歳：

レ^ダノ報復・1806=37歳：この年、_ロシア船がしきりに出沒したことから、

ワシタ船狼藉・1807=38歳：_再び、蝦夷地勤務を命ぜられ、宗谷詰となる。

フェ^トン号事件 1808=39歳：*調役下役元締となり、養父の後を継いで伝十郎と改名。間宮林蔵と共に、生涯で最も厳しいものとなる樺太探検に行き、間宮林蔵に先立ち樺太が島であることを発見。

浮世風呂・・1809=40歳：_樺太詰を命ぜられると、樺太アイヌを保護、山丹交易の改善し、以後、幕府統治がしやすくなる。

黒住教・・・1814=45歳：翌年にかけて江戸詰め。

杉田玄白没・1817=48歳：_江差、松前と勤め、行商人の取締り等地元への利益をふやした。

水野忠成老中1818=49歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1820=51歳：箱館詰、

伊能図完成・1821=52歳：宗谷詰となる。

英船浦賀来航1822=53歳：*増毛で越年中、蝦夷地直轄がふたたび松前藩に復領となるとの報に接し、持場の引継ぎを終えて、越後を廻って帰府。支配勘定役に昇進するが、母の重病を知らされ、40余年ぶりに帰郷するも間に合わず、

シ^ホノ来日・1823=54歳：

_以後、24年間の蝦夷地勤めで見聞してきた記録を残すべく「北夷談」として整理し、

鼠小僧磔・・1832=63歳：

大塩平八郎乱1837=68歳：

天保改革始・1841=72歳：

順天堂始・・1843=74歳：江戸神田の家で、_没した。

「人づくり風土記(新潟)」、